



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	図書館ニュース vol.29, no.2
Author(s)	東京学芸大学附属図書館
Citation	
Issue Date	2000-10-00
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/60007">http://hdl.handle.net/2309/60007</a>
Publisher	東京学芸大学附属図書館
Rights	

# 図書館ニュース

Vol.29, No.2 (2000.10)

## 図書館をめぐる諸問題

- 第47回「国立大学図書館協議会」総会に出席して -

鷲山 恭彦

2000年6月28日と29日に金沢市内において国立大学図書館協議会の総会が開かれ、山口博基事務部長と杵淵政明情報管理課長と私が出席しました。そこで話題になったことを、情報サービス面を中心に、本学の問題とからめつつ報告致します。

### 1. 「学生用図書購入費」をめぐる

今年度から予算の配分基準が変更され、従来、各大学に文部省から配分されていた校費における「教官当積算校費」と「学生当積算校費」の割合が大幅に下がり、新たに「教育研究基盤校費」が重点要素として位置づけられ、これが今後は競争資

金的な性格を帯びつつ、予算執行の中心になります。これから各大学が新しい配分基準を策定していく中で、図書館経費がどう位置づけられるのが問題です。

本学では「教官当積算校費」と「学生当積算校費」の5.5%だった図書購入費が、平成10年度に4.0%に減らされ、それが「学生用図書購入費」に

## 目次

図書館をめぐる諸問題（鷲山恭彦）	1
J.S. バッハ没後250年を記念して（久保田慶一）	4
『PsycLIT』から『PsycINFO』へ	6
BIBLIOFILE 39：『現行法令CD-ROM』と『リーガルベース』	7
お知らせコーナー 平成12年度基本的学術図書購入決定リスト	9
平成12年度附属図書館委員会名簿	9
平成12年度後期図書館暦（10月～3月）	10

一番大きな打撃となって、年間8,000冊購入できた新刊図書が4,000冊と半減してしまいました。

国大図協では、図書館経費のうち「学生用図書購入費」については、「少なくとも学生一人当たり、年間1冊の本が買えるように」等の議論があり、これを本学に当てはめると、学部と大学院合わせて6,500人おり、それに見合う「学生用図書購入費」(不足分 2,000冊×3,000円=600万円)と「基本的学術図書費」(300万円)となると、900万円ほどの増額が求められます。これは決して多いものではなく、これでやっと以前に保障されていた図書費と同額になるわけで、こうした配分基準の確定がもとめられています。

学術図書、教養図書の充実が一層求められており、今後こうした校費からだけではなく、科研費、受託研究費など外部資金からも、ある比率で図書資料費に回すなどの工夫も必要と思われる。

## 2. 「研究室図書」と「図書館図書」のはざま

各教官が研究費で買う図書は、購入は図書館で行いますが、後は各教官が自分の研究室に、あるいは学科や研究室図書室等に置く形になっています。

しかし、各研究室によって管理の仕方はバラバラなこと、他大学などからの問い合わせに対して、本が探し出せず、対応できないこと、「検索するといろんな本が揃っているにもかかわらず研究室に入れず、全然利用できない」という学生からの苦情が沢山出ていること、等々の問題があり、これでは、「公費で買った本を私物化している」といわれかねません。

教官研究費は修士非実験に統一され、10年間に25%の定員削減、30%のランニング・コストの削減など新しい事態のなかで、研究費の使い方、本や雑誌の購入の仕方も今後工夫が求められます。研究室で本を置く空間も年々狭まり、重複図書・雑誌の問題もあって、個人研究費で買う図書について、

当面、研究室図書をしっかり整理し、外部からの要請に備える。

今後、図書は研究室に置く形から、図書館に置く集中管理方式に変えていく。

といった対応が必要と思われます。

## 3. 電子図書館化の動向

図書が完全に電子情報化されていけばインターネットを通じてすべての本の内容が入手できる訳で、電子図書館が一ヶ所あればよく、大学図書館、公立図書館などはいらぬということになります。しかし実際は、冊子媒体と電子媒体はまだ共に必要とされており、「冊子体」、「イントラネットジャーナル(CD-ROM)」、「オンラインジャーナル」をどのような割合で組み合わせたらよいか、著作権の問題も含め今後の図書館の課題となってきました。

本学では、往復一対の手紙の模範文でつくられた「往来物」と呼ばれる教科書が多数含まれる『望月文庫』、『双六コレクション - 近世庶民教育資料 -』など、貴重図書の電子化を進めており、これらはインターネット上で見ることができ、本学からの情報発信の貴重な一翼を担っています。

## 4. 電子ジャーナルとコンソーシアム(共同利用体制)

本学では、現在100タイトル以上の電子ジャーナルが利用できます。冊子の購入が前提の無料サービスですが、多様な検索機能やリンク機能など、冊子体にはない利便性があり、大変好評です。これに試行中の有料サービスも加え、1,000タイトルほどが利用可能になっていますが、受益者負担など費用負担の在り方をどうするかの問題が出てきています。

各大学図書館がグループを作って共同購入する「コンソーシアム」をつくと、購読料が割引になるなど、有利な一面もあり、地域別に、あるいは、分野別にコンソーシアムの動きが出ています。

電子ジャーナルは、契約上の問題や、例えばエルゼビア・サイエンス社の日本向け価格政策について7大学図書館長名で要望書が出されるなど、価格設定についての問題等、今後解決すべき問題がたくさんあります。

学術雑誌は6社ほどの寡占状態になっており、電子化と共に、相互リンクされた総合デジタル学術データベースの形成に向かっていきます。先端分野

はこれを使わないと競争できないといわれ、この利便性の確保は、今後の学術研究の鍵になっています。

#### 5. 「総合目録データベース」と本学の遡及入力

「カード目録」から「OPAC(オンライン利用者用目録)」に重点が移行しつつあり、図書目録の遡及入力は、国立情報学研究所(前・学術情報センター)の目録所在情報システム(NACSIS-CAT)を使って各大学図書館で行なわれており、それは「総合目録データベース」として集約されています。このデータベースは、NACSIS-Webcat等を通して利用することができ、研究室等からネットワーク経由の目録利用が可能となりました。

本学では1990年から遡及入力作業を始め、全蔵書数約90万冊のうち約44万冊の入力を終え、予算の関係もあって1年に約4万冊の割合で作業を継続中ですが、利用者の利便性を考えると、早期に入力率100%を達成する必要があります。

なお、より効率的に全国の大学・研究所の図書のデータベース化がはかれるように、国大図協では、東大を要求大学として「日本学術図書総合目録データベース」の概算要求を出しています。

#### 6. 情報リテラシー教育への図書館職員の支援

情報リテラシー(情報入手や文献利活用能力)の育成が重要な課題になっています。今年4月から高鷲先生の「総合学芸領域」の授業『情報・文献へのアクセス』を図書館員との連携のもとに始めました。従来の図書館オリエンテーション、レファレンス・サービスにとどまらない図書館員のこうした活動は、学生の勉学の質の向上に役立つと共に、図書館員の専門能力の育成にもつながり、大変望ましい形です。ただ問題は、定員削減による図書館員の労働強化で、これが最大のネックになっています。

#### 7. その他

教職員および大学院生が他の国立大学図書館等を利用する際に必要であった共通閲覧証を廃止し、身分証明書・学生証を提示することで図書館等の利用が可能になりました。

また、これは本学独自の問題ですが、平成13年度「施設整備費概算要求」に『図書館の増改築』を載せました。1973年度に建てられて以来、既に4半世紀以上が過ぎましたので、時代の要請に応え「電子図書館的機能の強化」、「教育系大学のセンター的図書館としての機能の強化」、「利用者サービス部門機能の強化」の3本を柱とした要求です。要求した後、直ちに実現とはいかないと思いますが、今後工夫を重ねて是非とも増改築を実現したいと考えています。

図書館をめぐるはこのように様々な問題があります。図書館委員会を中心にして鋭意対応していきますので、多数のご提案、ご意見を期待しております。

(わしやま・やすひこ 附属図書館長)



## J.S. バッハ没後 250 年を記念して

久保田 慶 一

今年は「大バッハ」こと、ヨハン・セバスティアンが亡くなって、ちょうど250年です。今、私がちょうどこの原稿を書いている7月28日が、彼の命日です。ドイツのテューリンゲン地方の中心都市ライプツィヒで、65年の生涯を閉じました。図書館の方から、音楽と図書館について何か書いてくださいとの依頼を受けたわけですが、今日は、バッハの死後、彼が生涯にわたって作曲した曲がどのような運命を辿ったのかを、お話ししてみたいと思います。没後250年という記念年に、その250年間に何が起こったのかを、探ってみることにしましょう。

では、バッハは生涯どのくらいの数の曲を作曲したのでしょうか。「BWV 番号」をご存知でしょう。「BWV」というのは、「Bach Werke Verzeichnis」の頭文字で、「バッハ作品目録」という意味です。1998年に出版された最新版の目録には、1126番までの番号が付されています。しかし1,126曲すべてが、バッハの作品であるかということ、そうではありません。最初の「バッハ作品目録」が出版された1950年当時、この年もバッハの記念年でした - バッハの曲とされていたもので、その後バッハの作品でないと思われる曲、45曲程が含まれています。

さて、これでバッハの創作の全体的な分量がわかったわけですが、ここで大切なことは、これら作品のうち、当時バッハが楽譜出版した曲は、『イタリア協奏曲』(BWV971)や『ゴルトベルク変奏曲』(BWV988)などの鍵盤楽曲10数曲、30曲たらずのコラール変奏曲、そして『音楽の捧げ物』(BWV1079)ぐらいでした。ということは、残る1,000曲以上が、出版されずに、バッハ自身が書いた楽譜やそれを別の人物が筆写した楽譜、すなわち手書きの楽譜(手稿譜)でのみ残されたわけです。

バッハが亡くなった後、これらの手稿譜は、ふた

りの息子に財産分与されました。父親が亡くなった頃、ライプツィヒに近いハレという町の教会の、オルガン奏者そして音楽監督となっていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンは、まさきに役にたつ教会用の声楽作品を相続しました。その数は相当数あったと推測されていますが、その後生活苦から父親の作品を随時処分したために、現在まで残された楽譜は、200曲足らずです。その他の器楽曲や蔵書などは、ベルリンにいてプロイセン国王フリードリヒII世の宮廷でチェンバロ奏者として活躍していた次男のカール・フィーリップ・エマーヌエルが、相続しました。それから、まだ15歳になったばかりの弟のヨハン・クリスティアンも引き取りました。この弟はやがてイタリアでオペラ作曲家として頭角を現し、その後はロンドンで活躍します。ロンドンでは演奏旅行で訪れた8歳のモーツァルトを教えて、大きな影響を与えます。

さて、次男エマーヌエルは1768年には、テレマンの後任として、北ドイツの町ハンブルクの音楽監督になります。ベルリンでの宮廷音楽家の職務と違って、ここ商都ハンブルクでは、5つの教会の音楽をすべて担当しました。次男は父親から相続した受難曲の一部を利用したり、ドレスデンの宮廷に献呈されたものの演奏される機会のなかった『口短調ミサ』の一部を、ヘンデルの『メサイア』などといっしょに、演奏したりしました。

1788年、次男がこの世を去りました。次男は自作品のカタログを作り、またなかなかのコレクターでもあったために、死後2年後に、次男の『遺産カタログ』が未亡人の手で出版されました。そこには次男が生前に作曲したほとんどすべての作品が掲載されていて、作品の楽譜がほしいひとは、ハンブルクの未亡人までご一報をと、記されています。また父



親の作品もそこには掲載されていました。項目だけでも180ほどになります。

これらの楽譜はその後、ペルヒャウという人物に買い取られます。ペルヒャウは1799年からハンブルクに住んでいて、法律の専門家であったのですが、自筆譜の収集家でもあり、次男の遺産の多くを買い取りました。その後彼は、ベルリンに行き、そこではジングアカデミーという音楽協会の図書館長になったのでした。このペルヒャウのおかげで、エマーヌエルや父親の楽譜は、消失から逃れることができたわけです。やがて、ジングアカデミーの楽譜の多くは、プロイセン帝国図書館、現在のベルリン国立図書館（プロイセン文化財団）の所有となりました。

次男が所有した楽譜には、皆さんがよくご存知の『インヴェンションとシンフォニア』の自筆譜もありました。この楽譜はペルヒャウの手には渡らず、次男の後任となったジュヴェンケという音楽家から、シュポーア、グラスニクという人物を経て、1879年、プロイセン帝国図書館の所蔵となりました。楽譜は現在も「P610」という整理番号で保管されています。ここで下の図版を見てください。インヴェンションの第1番、八長調の冒頭部分です。1723年、バッハが清書した楽譜です。でも、皆さんが知っている楽譜とは、少し違います。第1に、譜表の上段は、ト音記号ではなく、ソプラノ記号で書かれています。現代の我々には非常に読みづらいのですが、当時の記譜法として何ら問題ありません。それよりも、ソプラノ記号を使って、加線の数を少なくして、五線紙やインク代を節約することの方が、大切だったのです。五線もバッハ自身があるいは奥さんが、ペン先が5本に分かれたペンで、1段ごと書いたのです。2番目には、右手の旋律です。第1小節めの第2拍め

です。皆さんがご存知のリズムは全部16分音符で、「ドレミ・ファレミド」です。ところがここには、「ドレミ・ファミレミレド」と、3連音符になっているではありませんか。これはどうしたことでしょうか。音符をよく見てください。3連符の真中の音符は、両端の音符に比べて小さく、無理やり押し込んだようになっています。バッハはこの楽譜を使って、ピアノのレッスンをして、生徒がうまく弾けるようになったので、3連符にして難しくしたのです。現在では、通常の16分音符のインヴェンションは「BWV772」、3連符の形の方は「BWV772a」という番号で区別されています。

こうしてベルリンにはバッハの自筆譜など貴重な資料が、集められました。しかしその後、これら楽譜もいくつかの試練を経験しました。第2次世界大戦の時期、戦禍が激しくなったベルリンでは、これら貴重な楽譜を疎開させました。バッハの作品は3つの場所、すなわち、南ドイツのチュービンゲン大学、中部ドイツのマールブルク大学、そしてシュレジェンの修道院に疎開させられました。この疎開によって、バッハの楽譜は戦禍を逃れることができました。

しかし戦後、再びドイツに戻ってきたのは、チュービンゲンとマールブルクで保管された楽譜だけでした。しかもそればかりか、戻る先も無くなってしまっていました。プロイセン帝国図書館はソヴィエト軍の占領下になり、その後は東ドイツ・東ベルリンに属したからです。戦後、チュービンゲンとマールブルクにあった楽譜は、西ベルリンに戦後設立されたベルリン自由大学の保管となり、やがて、西ベルリンのベルリン国立図書館の所有となりました。

さて、シュレジェンの修道院に疎開させられた楽譜は、この地域がソヴィエト軍の支配下になり、そ



J.S. バッハ：インヴェンション・八長調（自筆譜）ベルリン国立図書館所蔵 P610



ベルリン国立図書館（旧西ベルリン）

の後はポーランド共和国の領土になったこともあって、しばらくは行方不明でした。その存在が西側の研究者に知られたのは、1970年代になってからです。ここにはモーツァルトの自筆譜も含まれていました。これら楽譜は、現在もまだドイツに戻っておらず、クラフのサギェヴォ大学図書館が所有しています。

この他にも、第2次世界大戦中に行方不明になった楽譜も、たくさんありました。かつてハンブルク大学が所蔵していた次男などの作品を含む2,000点もの楽譜が、レニングラードの図書館で発見され、つい7、8年前、ハンブルク大学に戻されました。また昨年にはキエフの図書館で、かつてベルリンのジング

アカデミーが所有していた5,000以上の楽譜がアメリカの音楽学者によって発見されました。ここには、今まで存在が知られていなかった次男の声乐作品の自筆譜が多数含まれていました。

話をベルリンに戻しましょう。東西ドイツが統一されて、10年が経ちました。ベルリンには、かつてのプロイセン帝国図書館と戦後建築されたモダンな建物の図書館がふたつあり、統一直後はそれぞれが別々にバッハ関連の自筆譜を管理していたのですが、3年ほど前から、かつての東ベルリンにあった帝国図書館の方で、一括して管理されるようになりました。私も、午前中は東の図書館に、午後は西の図書館へと、バスを使って移動をしていたのですが、3年前に行ったときには、とても便利になっていました。

しかし、バッハの自筆譜は最近、特に劣化がひどく、基金を募って修復作業を行っています。バッハの時代のインクには鉄分が多く含まれていて、この成分が老朽化を早めているらしいです。ですから、図書館にいても、なかなか自筆譜を直接見せてもらえなくなりました。それに代わって、マイクロフィッシュでほとんどの自筆譜が見られるようになり、私の研究室にも、近々、マイクロフィッシュが届きます。興味のある方は、研究室まで、ご一報を。

（くぼた・けいいち 音楽研究室助教授）

## 『PsycLIT』から『PsycINFO』へ

これまで『PsycLIT』という名称で図書館のCD-ROMサーバーから学内限定で提供してきた心理学関係の二次情報データベースが、この10月から『PsycINFO』に変更になりました。これは『PsycLIT』が『PsycINFO』に統合されたためです。

利用方法に変更はありませんが、収録範囲は拡充されました。『PsycLIT』が雑誌記事、図書、図書の目次をカバーしていたのに加え、『PsycINFO』では技術レポートと学位論文が付け加わりました。また、データは3カ月に1度から毎月更新することになりました。

## BIBLIOFILE 39

## 『現行法令 CD-ROM』と『リーガルベース』

## 1. 新しいネットワーク CD-ROM データベース

今年度より2種類の法律関係のデータベースを学内 LAN を通じて提供しています。これで図書館の CD-ROM サーバーから利用できるデータベースは、国内で刊行されている主要雑誌の記事索引である「雑誌記事索引」、アメリカの教育関係資料の抄録・索引の「ERIC」、心理学分野の抄録・索引の「PsycINFO」、言語学分野の抄録・索引である「LLBA」をあわせて、6種類となりました。

これまでは二次資料といって、学术论文や報告書などを探するためのデータベースでしたが、今回提供するものは日本の法律、判例という一次資料をデータベース化したものです。

## 2. 現行法令 CD-ROM の概要

収録範囲は、現行のすべての法律・政令・省令並びに最高裁判所規則、人事院規則ほか各行政委員会の規則約7,000件を収録し、さらに、国内法令に関係の深い70の主な条約を加えています。

CD-ROM サーバーに入り「Horeicd」をクリックすると、現行法令 CD-ROM のオープニングウィンドウに続いて、「メインウィンドウ」が表示されます。ここでは、冊子体の法令集で探すように、目次や五十音索引で法令を探すことができます。他にキーワードが6つまで入力可能な「全文検索ウィンドウ」、

公布又は改正の年月日で検索する「年月日別検索ウィンドウ」、法令の名称や略称で検索する「法令名検索ウィンドウ」、任意の内閣又は国会で成立したものを検索する「内閣・国会別検索ウィンドウ」が用意されています。

検索結果の一覧から必要な法令名をクリックすると「Viewer ウィンドウ」が開き法令文が表示されます。日本国憲法など主要な51の法律には解釈・運用に必要な参照条文を各条文ごとに配置してあり、関連法令の該当条文にジャンプすることができます。表示では法令の標準的なスタイルである縦書き表記

もでき、また、禁則処理、ワードラップ、傍点、傍線、ルビ、さらに罫表なども完全な体裁で実現しています。



現行法令 CD-ROM のメインウィンドウと Viewer ウィンドウ



### 3. リーガルベース(全判例必要全文)の概要

このリーガルベースは、最高裁発足(昭和22年)以降に公刊された公式判例集、非公式判例集、主要法律雑誌に掲載された全法分野、全審級の判例約10万件を収録したものです。「必要全文」とは判例の中から先例的に意味のある内容を選択し、情報取得に必要十分な内容を収録しているということです。

CD-ROMサーバーに入り「Legal-base」をクリックすると、リーガルベースのオープニングウィンドウに続いて、キーワードで検索を行う「任意語検索画面」が表示されます。ここでは複数のキーワードを縦の欄に並べると AND 条件が、横の欄に並べると OR 条件が設定されます。他に法令名、実務分野から検索を行う「法令検索画面」、裁判日付、裁判所名、

事件番号、当事者・関与裁判官・関与弁護士名、出典から検索を行う「書誌検索画面」があります。

いずれの検索方法でも、検索後に「保存」ボタンをクリックしないと検索結果の「一覧表示画面」ができません。一覧表示画面では判例事項が参照できます。さらに必要なものを選択し、「詳細」ボタンを押すと「詳細表示画面」となり、詳細な内容が表示されます。

なお、検索終了後は必ず「終了」ボタンを押して終了処理をして下さい。

### 4. セットアップ及び操作

研究室のコンピュータから接続する場合、これまでネットワークCD-ROMデータベースを利用した事のない方は、初期設定が必要となります。図書館のトップページで「CD-ROM 検索」をクリックし、次の画面で「CD-ROM Server に接続する」をクリックするとCD-ROMサーバーに接続します。「初期設定」のページの説明に従い、初期設定を行って下さい。

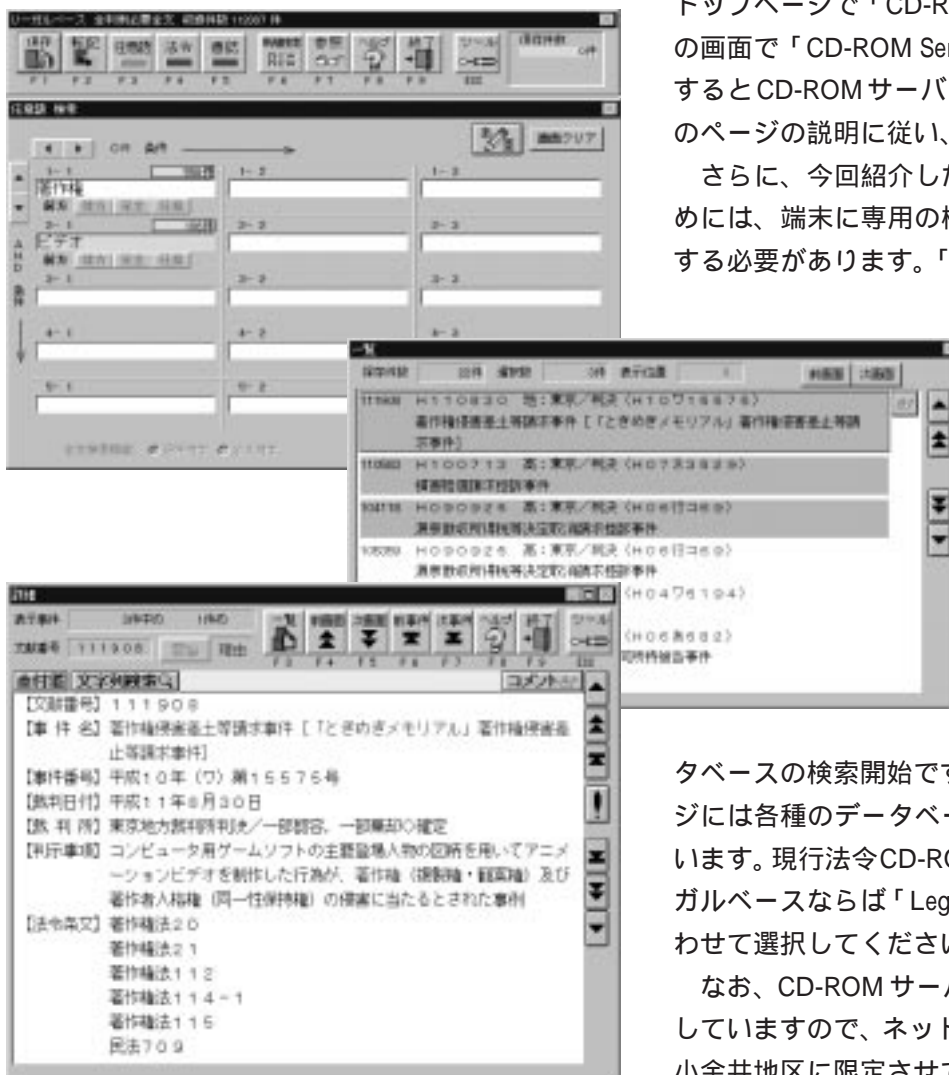
さらに、今回紹介したデータベースを利用するためには、端末に専用の検索ソフトをインストールする必要があります。「DBセットアップ」のページ

で、現行法令CD-ROMは「Horeicd setup」のアイコンをクリックすると検索ソフトがインストールされます。また、リーガルベースは「Legal-base setup」のアイコンをご利用の端末に合わせてクリックして下さい。

さてセットアップが完了したら、いよいよデータ

ベースの検索開始です。「データ・ベース」のページには各種のデータベースがリスト・アップされています。現行法令CD-ROMならば「Horeicd」を、リーガルベースならば「Legal-base」をご利用の端末に合わせて選択して下さい。

なお、CD-ROMサーバーはイントラネットに対応していますので、ネットワークCD-ROMのご利用は小金井地区に限定させていただきます。



(上) リーガルベースの任意語検索画面

(中) 一覧表示画面

(下) 詳細表示画面

(情報サービス課参考調査係)

## お知らせコーナー

## 平成 12 年度基本的学術図書購入決定リスト

基本的学術図書とは本学の教育・研究上基本的に必要な資料として附属図書館委員会によって選定されるものです。今年度は以下のものの購入を予定しています。

1. 明治・大正・昭和前期雑誌記事索引集成 社会科学編 全70巻 別巻8
2. 古代学研究 1-120号
3. Arguments of the philosophers. 36 vols. Re-issue 1999
4. History of education 15th-20th century. Unit 1 (マイクロ)
5. Early modern African American writers. Pt.1, Pt.2
6. Schriften des instituts "Umwelt-und Technikrecht" Bd.1-40 (1981-1998)
7. Journal of comparative economics. Vols.1-23 (1977-1996) Bound.
8. 国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書マイクロ版集成「語学」部門：日本語 リール No.106-157
9. 在日朝鮮人関係資料集成 戦後編 全10巻
10. Aristoteles: Commentaria in Aristotelem Graeca. Editio consilio et auctoritate Academiae Litterarum Regiae Borussicae. Vols.1-23. Nachdr. with Aristoteles: Supplementum Aristotelicum. 3 vols. (4 parts). Repr. (1885-1903) 1960
11. Encyclopedia of reagents for organic synthesis. 8 vols. 1995
12. Higher education policy series. 55 vols. 2 supplement vols. (lack: Vols.3,7-10,31,34,46,49,50,55. and 1 supplement)
13. 生きる力をはぐくむ算数授業の創造：CREAR 全15冊 ビデオ3巻セット
14. Thematic catalogues series. No.1-19
15. SALUTIS (WHO 世界健康百科) 全15巻
16. Encyclopedia of environmental analysis and remediation. 8 vols.
17. 中国科学技術典籍通彙 物理彙編・化学彙編・地学彙編・技術彙編・索引
18. Journal of reading. Vols.23-38 (1979-1994), Journal of adolescent and adult literacy. Vol.39, 1-4 (1995)
19. 最近北韓五萬分之一地形圖 全2巻

## 平成 12 年度附属図書館委員会名簿

所属	学科名(研究室)	職名	氏名	任期
図書館	地域研究学科(地域)	館長	鷲山恭彦	H11.4.1～13.3.31
第一部	言語文学第二学科(英語学英米文学)	講師	近藤弘幸	11.4.1～13.3.31
	社会科学学科(社会学)	助教授	浅野智彦	12.4.1～14.3.31
第二部	生活科学学科(家庭科教育学)	助教授	池崎喜美恵	11.4.1～13.3.31
	教育学科(教育学)	教授	江川 瓊成	12.4.1～14.3.31
第三部	化学科(化学)	助教授	國仙久雄	11.4.1～13.3.31
	生物学科(生物学)	講師	中西史	12.4.1～14.3.31
第四部	健康・スポーツ科学学科(生涯スポーツ)	助教授	藤枝賢晴	11.4.1～13.3.31
	書道学科(書道)	講師	加藤泰弘	12.4.1～14.3.31
図書館学関係	教育学科(生涯教育)	助教授	山口源治郎	12.4.1～14.3.31

平成12年度後期図書館暦(10月～3月)

日	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日
1	日	水	金	月	木	木	1
2	月	木	土	火	金	金	2
3	火	金	日	水	土	土	3
4	水	土	月	木	日	日	4
5	木	日	火	金	月	月	5
6	金	月	水	土	火	火	6
7	土	火	木	日	水	水	7
8	日	水	金	月	木	木	8
9	月	木	土	火	金	金	9
10	火	金	日	水	土	土	10
11	水	土	月	木	日	日	11
12	木	日	火	金	月	月	12
13	金	月	水	土	火	火	13
14	土	火	木	日	水	水	14
15	日	水	金	月	木	木	15
16	月	木	土	火	金	金	16
17	火	金	日	水	土	土	17
18	水	土	月	木	日	日	18
19	木	日	火	金	月	月	19
20	金	月	水	土	火	火	20
21	土	火	木	日	水	水	21
22	日	水	金	月	木	木	22
23	月	木	土	火	金	金	23
24	火	金	日	水	土	土	24
25	水	土	月	木	日	日	25
26	木	日	火	金	月	月	26
27	金	月	水	土	火	火	27
28	土	火	木	日	水	水	28
29	日	水	金	月		木	29
30	月	木	土	火		金	30
31	火		日	水		土	31

\*臨時休館日については、その都度掲示しますので、ご注意ください。

授業期 平日(月～金) 開館時間 9:00～22:00  
土・日・休日 開館時間10:30～16:30

授業期 平日(月～金) 開館時間 9:00～17:00

編集発行 東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

電話 042-329-7223 FAX 042-329-7226

URL <http://library.u-gakugei.ac.jp>